

令和8年度の学校経営について

文責 武田 裕子

1 学校の教育目標（目指す子ども像）

郷土「山寺」を愛し、社会に役立つ人間の育成

～考える子ども・助け合う子ども・たくましい子ども～

「郷土山寺を愛し」	=	自分を育ててくれる世界的観光地ふるさと「山寺」に愛着をもつ子ども
「社会に役立つ人間」	=	社会参画に意欲をもち、貢献しようとする意識をもつ人
「考える子ども」	=	自ら課題に気づき、学び方を選択し、課題解決に取り組む自立した学習者
「助け合う子ども」	=	他者の考えや立場を尊重し、協働できる子ども
「たくましい子ども」	=	心身ともに健康で、挑戦し続ける子ども

2 目指す学校像 みんながしあわせな学校～一人ひとりが主人公～

3 目指す教師像

- (1) 子どもに寄り添い、信頼される教師
- (2) 高い志をもち、学び続ける教師

4 経営の重点

(1) 「主体的・対話的で深い学び」の具現化

- ① 学びの課題のデザイン・学びの環境デザイン・学びのファシリテート・学びのリフレクションを工夫し、アウトプットを中心とした授業を展開する。
- ② 研究主題「自ら学び方を選択し、学びをつなぐ児童生徒の育成～主体性を育む授業デザイン～」を設定し、子どもたちの「自分と向き合う力」「多様性を認める力」「目標に向かって挑戦する力」を育む。

(2) 一人ひとりを大切にし、安心して学べる居場所づくり

- ① 生徒指導実践上の4つの視点（自己決定の機会の提供、共感的人間関係の育成、自己肯定感の感受、安全・安心な風土の醸成）をふまえ、学習指導と生徒指導の一体的充実を図る。
- ② 一人ひとりの特性やニーズ等に応じた指導・支援を心がける。
- ③ いじめ未発見・未解決「0」を目指し、組織的に対応する。

(3) 山寺探究学習の充実

- ① 学校運営協議会と連携し、地域素材を生かした探究活動（山寺PR・「山寺物語」・「磐司太鼓」等）に取り組む。
- ② 五感を伴う体験活動への挑戦を通して、社会性やレジリエンスを育む。
- ③ 俳句活動を通して、感性や情緒を豊かにする。